

地方自治法施行 60 周年記念貨幣(島根県)の表面図柄の説明

千円銀貨幣(表面)(1.5倍/原寸)

『御取納 丁銀と牡丹』



世界遺産登録された石見銀山から産出された銀で当時作られた御取納 丁銀と、島根県の県花である牡丹をデザインしています。

石見銀山から産出された銀は、16世紀半～17世紀前半には世界の産銀量の3分の1を占めた日本銀のかなりの部分を占め、アジア諸国とヨーロッパ諸国を交易で結ぶ原動力となっていました。

御取納 丁銀 毛利元就が1560年(永禄3年)の正親町天皇の即位式の用立てとして献納したもので、毛利家の控えとして残されていたもの(島根県所蔵)。

牡丹 島根県を代表する品種をデザインしており、図案は右上から時計回りに「朝日港」「紅輝獅子」「新七福神」。

五百円バイカラー・クラッド貨幣(表面)(2倍/原寸)

『銅鐸とその文様・絵画』



加茂岩倉遺跡(島根県雲南市)から出土した加茂岩倉35号銅鐸を中心に構成し、背景に同じく加茂岩倉23号銅鐸の文様・絵画を配しています。

同遺跡から出土した銅鐸は、国の文化審議会(本年3月21日開催)から国宝に指定するよう文部科学大臣に答申がなされています。

加茂岩倉35号銅鐸、23号銅鐸は、今まで近畿地方を中心に出土しているものと異なる特徴(文様)を有しており、出雲で製作された可能性が指摘されています。

出雲の地で発見された本銅鐸群は、銅鐸の製作・移動を考える上で重要な知見をもたらし、弥生時代の社会を知る上で欠くことのできない重要な資料となっています。